

TEC 通信

NO. 5

2017年3月12日 発行

立川イングリッシュチャットルーム

発行責任者：熊田 強子

Tel: 531-1887

ヤオ博士と語るアフリカ文化とアフリカ問題

ヤオ博士の地域活動

ご出身の国連大学交流と、お仕事の東京大学研究員として、世界中を飛び回り、超多忙のヤオ博士ですが、今回初めて、立川市多文化共生センター・高久さんの企画、「ガーナ共和国って、どんな国・」の講座を受け持っていました。その時の様子は、下段の写真のとおりですが、くわしいおはなしは、当立川イングリッシュチャットルームのホームページにのっておりますので、ご覧ください。特に、博士手作りの、DVDを、この紙面でお見せできないのが残念です。

とてもカラフルで、アフリカの豊かな面と力強さを感じさせるものになっていました。



TECの目的・その活動履歴と今

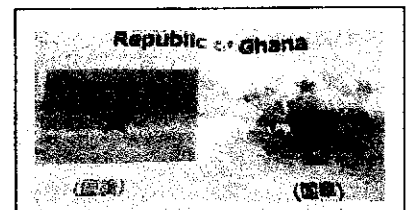
これらについては、ホームページをご覧ください。こちらでは、立川イングリッシュチャットルームの私達と、ヤオ博士との友情が切り開いてくれた、TEC活動の今に焦点をあてて、ご報告したいと思います。

一口メモ「資源の呪い」

：この言葉聞いたことありますか？
資源（ミネラル、石油等）が豊富な国ほど、経済成長が、低い結果になるという、パラドクスです。

「フウフウ」って何ですか？

一口に言っても、フウフウとは、日本の「すいとん」または、団子汁のようなもの。聞いたことがない人は、お年寄りに聞くとわかると思います。アフリカでは、家族が集まるとき、少しホットした時等に、良く作るそうです。ニンニクや、ショウガ、野菜タンパク質が沢山入り、いかにもミネラルが豊富で、温かい家庭料理、西欧諸国にない「豊かさ」のようなものが魅力。家族が、輪になって、楽しそうに談笑しているところが目に浮かぶようなお料理でした。料理の背景や地域性等、詳しくは、立川イングリッシュチャットルームのHPをみてください。



ヤオ博士が、私達に教えてくれたこと

：短い答えは、タイムの記事と、アフリカ問題、ひいては、世界の動きに、「ヒューマンな顔」を与えて下さった事だとも思います。日本の新聞にも、いっぱい出てくるアフリカの話、やっと自分たちにも大

切な近しい人の話として響くようになりました。そこから発展し、私たちがであった本、「略奪の罫」：トム・バーギス著（フィナンシャルタイムズ）の話が印象的でした。アフリカ全体からすると、ガーナは、教育システム、安定した政府などは、さすが、アフリカで最初に独立した国だけあって、内外共に認める点ですが、やはり、「オイル」の輸出における「資源の呪い」のパラドクスを免れていないことの報告が示

されていました。輸出に関する「税」の仕組みに関する研究・調査報告の中に、具体的な数字が示され、世界銀行や、IMFも構造的に、このパラドクスに加担しているという事実の指摘に、私達は驚きました。